

◆ 朗読会 ◆

<p>第1回</p>	<p>11月3日 (金・祝)</p>	<p>大学祭朗読会            演目：あまんきみこ「白いぼうし」            伊勢英子『マキちゃんの絵につき』より                  「さびしいマキちゃん」「雨、まだふってる」            喜多南「一年後の夏」            松田青子「少年という名前のメカ」            角田光代「旅する本」</p>
<p>第2回</p>	<p>2月12日 (月・祝)</p>	<p>文学館朗読会            テーマ：「わたしの、ものがたり。                  ～現代女性作家のまなざし～」            演目：〔朗読チーム〕            安東みきえ『夕暮れのマグノリア』より                  「マーブルクッキー」            角田光代 『Presents』より「名前」            〔すずの音〕            ほしおさなえ『活版印刷三日月堂』より                  「ちょうちょうの朗読会」</p>

◇ 大学祭朗読会の感想 ◇

報告 音楽芸術学科3年 阿部美彩



ポスター作成：図書館

今年は、朗読チームが月曜日と水曜日の2つに分かれてレッスンしていただいていた関係で、月曜日のメンバー、水曜日のメンバーで作品の選択肢が異なるようになってしまっていました。しかし、その分、濃いレッスンをしていただきましたので、それぞれ魅力のある朗読になったように感じました。私は、授業の関係で水曜日にレッスンしていただいていたので、同じ水曜日組の子と2人

で角田光代作「旅する本」を読みました。練習時間も、2人で作品を合わせる時間も前年とは比べ物にならないほど少なかったため、当日も不安でいっぱいでしたが、一緒に読んでいた子と力を合わせて読むことができたように感じました。昨年よりも良かったという声もあったので、一安心しました。個人的に、今年の大学祭は今までの3年間で一番忙しいスケジュールだったので、あまり集中できた感じがしませんでした。朗読チームのみんなの笑顔に安心したことは、素敵な朗読会にする力になったと思います。月曜日チームの練習を日頃見ることができなかった分、リハーサルと本番で皆の朗読を久しぶりに聞き、1年前からの成長を強く感じました。今回は個人的なスケジュールの関係で準備や片づけへの参加ができなかったため、あまり皆の力にはなれなかったのですが、鈴木先生をはじめ、朗読メンバーやOGの「すずの音」の方、図書館の方々が手伝ってくださったため、スムーズに朗読会が開催できたと感じています。昨年度よりも若干お客様が少ないように感じたので、来年はメンバー側でももっと広報していけたらいいなと思いました。



## ◇ 大学祭朗読会 ◇

報告 音楽芸術学科3年 鈴木珠友



私にとって今回の朗読会は特別でした。初めて自分で選んだ作品を朗読したからです。また大学祭で朗読するのは3回目で、今回発表するメンバーの中では私が一番の経験者でした。その様なことから、お気に入りの作品を聞いているお客様にも好きになってもらいたい気持ちと、先輩としてしっかり頑張らなくてはいけないという思いで、本番は緊張していました。

緊張もしましたが朗読をしている時、心の支えになったのは一緒に気持ちを込めて読んでいるパートナーが隣にいたことでした。今回は、角田光代の「旅する本」を同じ音楽芸術学科3年の阿部さんと読みました。お互いメインキャンパスが山手であるため、他の朗読メンバーと練習時間が合わず、特別日程を組み練習させていただきました。数回しかない貴重な練習だったため2人とも先生に教わることに必死で、作品理解と表現をよりよくするために頑張りました。

その努力あってか、本番を終え先生には「なかなか良かったよ」とお褒めの言葉をいた

だけ、OGの方には「ぴったりの作品だった」と朗読を聞いて頭の中で作品の絵を思い浮かべてくれたのだとわかり、とても嬉しかったです。最後には阿部さんとお互い笑顔で顔を見合わせて「お疲れ様。ありがとう。」と声をかけあえました。

今回の大学祭朗読会を通して、「旅する本」がたくさんの思い出が込められた作品になりました。この本の主人公のように、またいつか「旅する本」を読み直した時に「今回の大学祭のことを思い出し心温まるのだろうか」と想像すると、より思い入れの深い特別な朗読会になりました。

### ◇ 大学祭朗読会 ◇

報告 日本語日本文学科2年 穂積優香



今年も11月3日フェリスフェスティバルにて朗読会を行いました。私は今回で2回目の大学祭だったので、1年前よりも良いものを！という思いで読ませていただきました。今年のテーマは“現代女性作家”、そのテーマに沿ってそれぞれが考え、思いを込めて読めた朗読会になったと思います。私はこの1年で今までやったことのないような役をたくさん読ませていただき、とても良い経験になりました。そんな中で今回の「一年後の夏」は高校生という同年代の役で原点回帰できるような作品でした。練習の期間は、短いお話ですが感動する作品なので、その物語の中でどれだけ感情を乗せられるかということに苦戦していました。ですがその作品の良さに支えられ、本番は物語の感情を声に乗せて朗読ができたと思います。みんなでそれぞれの作品に真摯に向き合ったこととお客さんと一緒に楽しむことができ、改めて朗読が楽しいと思える、そんな1年間になりました。来年もまた違った読みに出会い、より成長できる1年間にしていきたいです。



朗読チームの皆さん、すてきな朗読でした！



◇ 神奈川近代文学館での朗読会 ◇

報告 図書館 森園佳子

冬晴れの2月12日(月・祝)、読書運動プロジェクトのメンバーのうち朗読を活動の中心としている「朗読チーム」が、卒業後も朗読を続けているOG朗読グループ「すずの音」の皆さんとともに、神奈川近代文学館のホールで朗読会を開催しました。文学館との共催で行うこの朗読会も今年で8回目を迎え、来場者数は過去最高の160名を記録しました。毎回楽しみに足を運んでくださる常連の方もたくさんご来場になり、今回もご満足いただけたようです。

今年度の朗読会のテーマは「わたしの、ものがたり。ー現代女性作家のまなざしー」ということで、人気女性作家3名の作品をマイクを使わず肉声だけで披露しました。学生たちは朗読家の鈴木千秋先生の熱いご指導のもと、昨年の秋から今回の朗読会のために懸命に練習に取り組み、本番では堂々と読み上げることができました。

また、OGの「すずの音」が読んだ「ちょうちょうの朗読会」(『活版印刷三日月堂』より)は、本学の非常勤講師でもあるほしおさなえ先生が、以前に「すずの音」の朗読を聴いてインスパイアされ、生み出されたお話だそうです。モデルとなっただけあって、とても心がこもった真に迫る朗読でした。

一般のお客さまからも「作品に引き込まれた」「昨年より上手になった」という多くのご感想をいただき、出演者たちは次のステップへのさらなる意欲が増したようです。今回の経験を活かし、来年度もよりいっそう素晴らしい朗読会をお届けしたいです。



ポスター作成：図書館

